

**【年度末評価】 令和元年度 長野県赤穂高等学校(定時制課程) 学校評価表1/2**

学校運営計画				
学校教育目標	憲法及び教育基本法に基づき、特に次の事項に留意して教育実践に当たる。 1. 生徒の自主性を高め、個性を伸ばし、社会性を養い、実践力のある社会人の育成に努める。 2. 職員は絶えず研修に努め、魅力ある学習指導を行うなかで、真摯な学習態度を育成する。 3. 体育及び芸術教育を通して、情操教育を尊重し、心身の調和的発達を期する。 4. 自然及び社会に関する科学的思考力を高め、総合的学力の涵養を図る。 5. 課程・学校の性格を明確にし、相互の協力を図るなかで、地域に根ざし、特色の発揮に努める。	基準(以上)	評価	評価は1, 2, 3, 4, 5 5 大変よい 4 よい 3 普通 2 あまりよくない 1 よくない
		4.0	A	
		3.0	B	
		2.0	C	
重点目標 (中・長期的目標)	働きながら学ぶことで、勤労学生としての自覚と高い理想を持ち、自己の向上を図る意志と態度を養うとともに、自他の生命と人権を尊重し、互いに協力しながら堅実な校風を樹立し、社会に貢献できる人材を育成する。	1.0	D	
今年度目標	具体的目標	評価	課題と具体的な改善策	
①生徒の学習意欲を喚起し、基礎学力の定着と進路目標の実現を図る。	生徒の実態に即した学習指導を推進し、わかる授業・わからせる授業を展開するため、授業改善を積極的に行う。	A	少人数だが学力差があるので、すべての教科でTTの形がとれないか検討課題である。生徒の意欲向上や主体的な取り組みを促すために、さらに寄り添った指導が必要である。授業プリントにルビをふるなど工夫した。	
	積極的な学習態度や生活習慣を涵養し、基礎学力の充実に努め、確かな学力を身につけさせる。	B	高2までに中学程度の基礎学力の定着を図るため基礎講座の内容をさらに充実させていく必要がある。生活の質の向上や将来のために役に立てる学びを提供し続けていく必要がある。実際のところ、高校2年で中学校段階の基礎学力の5割程度の習得率ではないか。	
	始業前に選択授業などを行い上級学校進学希望者に対応するような体制を整える。	A	4年担任を中心に進路指導(面接練習、各種検定指導、補習授業など)を行い、念願であった四年制大学に2人合格を果たした。高2までの進路指導(進学・就職指導)が重要でありこれからの課題である。	
②自由と責任を重んじ、自立的な生活習慣を確立し、社会の有為な形成者としての資質を養う。	生徒に基本的な生活習慣を身につけさせる。	B	さらに家庭と連携を図りながら、基本的な生活習慣の確立を図ることが課題である。食生活、睡眠時間など生活全般で乱れがある生徒が多い。日常の声掛けや食育講座、人生発見講座などを通じ、継続的な意識付けをしていく必要がある。アルバイトをしていない生徒に不規則な生活習慣が目立つ。	
	社会に出て通用するマナー指導の徹底を図る。	B	集会、授業態度、男女交際、スマホ等、さらに効果的に指導していくことが課題である。マナーについて職場ではできるが、学校でマナーを守れるよう継続して指導していく必要がある。挨拶ができる生徒は多い、公共の場での言葉遣いを指導していく必要がある。	
③互いの人権を尊重し、いじめや体罰のない安心・安全な学校づくりを推進する。	人権を尊重し、責任を持った分別ある行動ができる生活指導を進める。	A	アルバイトをしている生徒が多いので責任をもって取り組むことができる生徒が多い。	
	健康と安全に注意を払い、学業と勤労が両立できる心身共に健全な身体をつくる。	B	生徒によっては昼間の仕事で疲れ、夕方以降の授業に集中できない者もいる。アルバイトに関する相談を積極的にしていく必要がある。また、健康面(食事面)で不安定な生徒が多いので引き続き食育指導をしていく必要がある。学校と相談なく就労や離職するケースが目立つので改善を図る必要がある。	
	生徒との相談体制をより充実させ、小さな事も見逃さない指導を目指す。	A	養護教諭のきめ細やかな対応で相談体制が構築されており、小さなことでも情報共有ができています。職員室に入りやすく、相談しやすい雰囲気をつくり、多くの生徒と語らえる場を積極的に作った。少人数なので、生徒の様子はよくわかり、職員間で情報を共有できています。	
	いじめの未然防止、早期発見、早期対応のため、生徒が示す変化を見逃さないよう心がけ、いじめを積極的に認知するとともに、いじめの実態把握につとめる。	A	学校評価・授業評価、アセス(学校適応感尺度)を毎学期実施し、結果を考察するなどいじめの未然防止を図ることができた。夏休み前に自殺予防対策の生徒向け研修を行った。来年度も夏休み前に実施する。生徒指導係が中心となり、いじめ(人間関係のトラブル)の被害者・加害者双方に適切な指導ができた。	
④家庭・職場・地域との連携を密にし、積極的に就労を支援する。	家庭・職場訪問等を行い、連携を密にし、生徒一人一人の理解を深め、4年間の学業にいそませる。	A	現在、勤務している会社が就職先になる生徒が何名かいたので4年生で就職を見据えた職場訪問を行った。生徒の職場での様子、勤務状況なども同時に把握でき、いい情報館の機会であった。就労相談先として、マイサボ、伊那養護学校、ジョブカフェ、ハローワークなどに相談していくか検討が必要である。アルバイトが長続きしない生徒もみられるので、年4回ほど就業先調査を実施し、就業状況を確認する必要がある。	
	家庭・地域・職場との連携を強化するため、WEBページによる情報発信や定時制振興会との交流を通して、開かれた学校作りを目指す。	A	積極的にWEBページに活動等を掲載するなど、例年以上に情報発信を充実させることができた。	
領域	評価項目	評価の観点	評価	課題と具体的な改善策
教育課程	教育課程を検討する。	学習指導要領の趣旨を反映させ本校教育目標の実現に即した教育課程となるよう検討する。	A	大学進学希望に合わせ、教育課程を一部変更し対応を図った。
教科指導	授業時数を確保する。	授業交換等によって自習時間を作らない。	A	学習係が3週間ごと授業時間割を作成し、授業交換を行なうなど自習時間をつくらないよう徹底されている。
	授業内容を充実させる。	基礎的・基本的内容を重視した指導を行い基礎学力の確実な習得・基礎技術の習熟を図る。	A	教科書だけでなく補助教材、プリント等を使いながらわかりやすい授業を心がけ実践できた。1年でベネッセ基礎力診断テスト、2年でSPI検査を実施し分析を行い今後の指導の目当てを検討した。
	授業態度の改善を図る。	授業に不必要な物を片付けさせ、学習環境を整えて授業に臨ませる。授業の中に生徒指導の機能を生かす。	B	職員の生徒指導、学習指導に対する意識統一が図られ、授業中のスマホ使用者も減っているが、まだ一部の生徒が改善されていない状況である。根気よく個別指導、集団指導を繰り返して行く必要がある。全体的にはよくなっているが、遅刻者の入室態度を改善する必要がある。
	授業の改善・工夫に努める。	生徒の実態にあった授業法を確立するため、研究授業等職員研修を実施する。	B	授業改善を目的に教員同士が授業を見学し合う授業見学週間を毎年実施しているが、見学のみで研究授業の形になっていない状況である。次年度は反省会(話し合い)等を設けていきたい。
生徒会・部活動	生徒会活動の活性化を図り、自主的・自立的行動ができるようにする。	生徒会役員にリーダーとしての自覚と責任を持たせ、日常の学校生活や学校行事に意欲的に取り組ませ、生徒会活動を充実させる。	A	徐々にではあるが4年生が役員としての自覚をもち、主体的に生徒会活動をリードできつつある。生徒会活動に対する生徒の意識が低いので、主体的に自治が図られるような助言が必要である。自主的な行動が困難な生徒が多いため、教師からの声掛けや、やり方を示すなどの指導が必要である。
	部活動を奨励し、生徒に自信を持たせるとともに、学校の活性化を図る。	日常の部活動の成果を学校生活に生かせるよう、全職員が連携して取り組む。	B	運動部については大会前(4.5.6月)は競技を目的に、大会後は体を動かし汗を流すことを目的に3割ほどの生徒が活動している状況である。平和ゼミナールの活動を引き継ぐ生徒の育成ができず、全日制(探究学習)に後継者を求めるなど苦慮している。
生活指導	望ましい基本的な生活習慣を育成を促す。	服装・態度・時間厳守・喫煙・薬物乱用防止等に関する生徒指導上の問題点に対して学校保健委員会等と連携し学習を深め一層の徹底を図る。	A	生徒指導上大きな問題がなかった。就業していない生徒の基本的な生活習慣の育成が課題である。
	問題行動を起こした生徒に対して、丁寧で継続的な指導を行う。	生活指導担当、学年を中心に生徒相談委員会と連携し、組織的・継続的に指導を行う。家庭や地域との連携を密にし、協力して指導にあたる。	A	問題行動はツイッターへの投稿のモラル欠如の1件だけであったが、特別支援、特別配慮を念頭に置き、柔軟な指導を心がけていく必要がある。

【年度末評価】 令和元年度 長野県赤穂高等学校(定時制課程)学校評価表2/2

領域	評価項目	評価の観点	評価	課題と具体的な改善策
安全指導	四輪、原付の安全で正しい運転ができるよう指導する。	年1回の実技講習を行う。	A	自動車学校と連携して自動車免許取得者の実技講習を行うなど、交通安全指導が効果的に行われた。今年度、四輪通学者が8名であったが、敷地(校地)内の徐行を徹底させる必要がある。
	交通社会の一員としての自覚を持たせる。	年2回の交通安全指導を行う。	A	自転車保険への加入を徹底していく必要がある。3年生以上になると自動車通学者が多くなることから、毎年春と秋に実施する方向で検討していきたい。
		登下校指導を全員の職員で行う。	A	年間を通じて登校時に昇降口前に立ち、交通指導を含むの登校時の声掛けを行い注意喚起を図った。夜間下校時の無灯火の自転車が見られるので指導をしていく必要がある。登下校指導は生徒指導係だけでなく全職員で行えるようにしたい。
進路指導	社会や経済状況を的確に分析・把握し、社会の要請に応えるべく適切な進路指導を行う。	充実した進路指導ができるように、指導体制の整備に努める。	A	就職試験前には多くの職員が関わり面接指導を行うことができた。人数が限られるので就職試験等の資料(データ)の蓄積をしっかりとしておく必要がある。
		各種資料を提供し、進路目標を適切に決定できるように指導する。	A	4年生を中心に適切な進路指導ができた。1年生からSSTやアルバイトセミナー、労働相談などの就労支援の取組をしていくことを検討している。
	生徒の能力や特性を生かした進路指導の充実を努め、進路選択や進路決定を支援するために、正しい勤労観や職業観・学業観を育成する。	担任を中心に学年に応じた就業指導を実施する。	A	企業見学、就業体験など積極的に実施することが来年度の課題である。難しい人間関係や過酷な労働環境が学校生活の妨げになっていることがあるので注意を払っていく。
		ハローワークとの連携や定時制振興会の協力を得ながら積極的に求人開拓をする。	A	担任の先生が精力的にハローワークと密に連絡を取り就職活動をサポートした。ハローワークや定時制振興会とさらに連携して取り組みたい。
	上級学校進学希望者に対応できる教育課程を設定し、進路指導を行う。校内進路ガイダンス(講演会など)を実施する。	A	大学進学希望者への対応で選択科目を用意し、マンツーマンでの指導を行うことができた。	
キャリア教育	勤労学生として生活を送る中で、将来設計と就業への移行を実現させ、社会的・職業的に自立した人間を育成する	パート・アルバイト等への就業指導をSSTも含めて、継続的に行う。	A	アルバイト就業率が上がるよう就業指導や社会人としてのソーシャルスキル養成のためSST指導を行っていく必要がある。授業よりもアルバイトを優先してしまう傾向がある生徒がいるので引き続き助言していく必要がある。
		人生発見講座、生活体験発表会、講演会等を通してキャリア教育の推進を図る。	A	それぞれの学校行事がキャリア教育と結びついており継続した取組が課題である。
人権教育	教育活動の全分野で、人権教育の視点で生徒一人一人を大切に、生徒の自尊感情を育て、自己実現に向けて自らの進路を切り拓く力を育成する。	講演会の実施、ネットモラルについての学習、視聴覚教材などの活用により理解を深める。	A	ネットモラル(スマホ)について、正しく理解させるような指導が必要である。スマホ安全教室は毎年実施していく必要がある。今年度の人権教育は信大出前講座を取り入れ、生徒たちも好評で、充実した人権教育となった。(信大伏木教授おすすめ)
		教職員が研修へ積極的に参加する。	A	グリーフケア(家族を亡くした子供への寄り添い)についての研修会に参加した。教育センター等の特別支援教育や自殺予防など定時制に関わる内容の研修講座に積極的に参加できた。
健康指導	心身の健康を保持増進するために、健康診断・健康相談・保健指導を計画的に行うとともに、安全で衛生的な学校環境作りに努める。	疾病の早期発見、早期治療を目指して実施する各種検診、健康相談を受ける姿勢を養う。	A	養護教諭が生徒・職員の健康づくりに気を配り、適切な指導が行われている。家庭状況により医療機関への受診がスムーズに進まない場合があるので、懇談会で粘り強く受診勧奨する必要がある。逆に保護者と連携して、疾病の早期発見につながったケースもあった。自分の健康を意識することが難しい生徒が多いため、保護者も含め日常的に声掛けを行う必要がある。
		生徒相談委員会と連携し、必要に応じて「心の相談」や「性の相談」を実施する。	A	養護教諭が生徒相談の窓口としての機能を果たしている。全職員にも相談体制ができています。相談しにくい課題であるため、普段から情報の収集・共有・連携を密に行う必要がある。男女間の問題は個別対応と個人情報への配慮が必要である。
	生徒が健康問題を生涯の課題として考えられるようにする。	薬物や性についての講演会を実施する。	A	人生発見講座は生徒が満足できる内容であった。さらに充実させていきたい。今年度は、学校薬剤師による薬物乱用防止教室を行った。
生徒相談	誰もが相談できる雰囲気醸成する。	日常的な対話を重視し、タイムリーに相談できるようにする。	A	全職員が温かく生徒を迎えるなど、入りやすく、話しやすい職員室になるよう心掛けていく。職員室をできるだけ開放し、発達障害を抱える生徒に対して、職員室の空いた机を自由に使用させ、絵を描かせたり、対話したり、時にはスマホをいじらせたり甘やかさせながら特別支援教室としての役割を果たした。
	悩みを持つ生徒からの相談体制を確立する。	口頭での申し出がうまくできない生徒には、声がけをするなどして、生徒相談を深める。	A	生徒が自らすすんで相談するというよりは、職員の方から声がけて悩みを聞き出している。声を上げられない生徒には、挨拶など簡単な声がけを繰り返し行い、相談しやすい環境をつくる。
		必要に応じて「生徒相談だより」を刊行する。	B	生徒、家庭の学校に対する理解等のため、「〇〇だより」を増やしていきたい。
家庭・地域との連携	学校開放などで積極的に本校をPRするとともに、PTA・同窓会・定時制振興会・地域との交流に努め、開かれた学校作りを目指す。	生活体験発表大会(校内、南信、県)を通して、他校生徒や地域との交流を推進する。	A	台風19号で県生活体験発表大会が中止となったが、書類審査で本校生徒は優秀賞を受賞した。
		PTA・学校職員によるレクリエーションなど交流を推進する。	A	PTS交流会は多くのPTAの皆様の参加し、親子バレーや焼き肉会など家庭と学校の交流が図られた。
		三者協議会、定時制振興会総会を実施する。	A	毎年1回開催の振興会総会をさらに充実させていきたい。
いじめ防止	いじめを未然に防止する。	人権教育、情報モラル、教育相談週間、校内研修等をバランスよく計画、実施する。	A	1年生の入学当初が一番いじめ発生のリスクが高いため4月にグループエンカウンターなどを実施できるか検討していく。
	いじめを早期に発見する。	定期的なアンケート調査や面談の実施等により、生徒が示す変化や危険信号を見逃さないようアンテナを高く保ち、いじめを積極的に認知する。	B	学校評価、授業評価、アセス(学校適応感尺度)を毎年2回実施しており、いじめを積極的に認知できるような取り組みをしている。SNSの普及でなかなか問題が表面化しない場合が多く、さらにアンテナを高く張る必要がある。些細な人間関係のトラブルは2~3件あり、いじめと認知した件数は1件であった。
	いじめに早期に対応する。	いじめと疑われるものすべてに組織的に対応し、当該生徒や保護者の気持ちに向き合う。	A	生徒指導係を中心に被害者の側に立ったいじめ認知やその対応に心がけた。いじめと認知しない事案(些細な人間関係のトラブル)でも、丁寧に対応できた。
	ネット上でのいじめに対応する。	インターネットの安全な利用について生徒が自ら考え自ら行動するためのスマホ・ケータイ安全教室を実施する。	A	スマホ安全教室だけで終わらせることなく常にネット、SNSには目を光らせている必要がある。スマホの使い方は改善が必要な生徒がみられる。SNSアカウントへの鍵(ロック)や安易な写真動画の投稿をやめさせる指導を継続していく必要がある。